



RSウイルスはなぜ、流行する？

皆様、暑い夏にむけていかがお過ごしでしょうか。

現在、ジメジメとした梅雨の季節にこの原稿を書いております。例年RSウイルス感染症は9月頃に増えることが多いですが、流行時期が不規則となっています。まずは以下の記事をご覧ください。

RSウイルス



RSウイルスのRSは「Respiratory Syncytial(=呼吸器の合胞体)」の略です。パラミクソウイルス科ニューモウイルス属でRNAウイルスです。主に咽頭や気管支などの**呼吸器に感染**します。感染経路は**飛沫感染**が主で、手指を介した**接触感染**です。最初に鼻に感染し、抗体のない乳幼児では下気道まで感染し、細気管支炎を起こします。潜伏期間は2~8日で典型的には4~6日となっています。このRSウイルスが流行しやすい原因として、感染期間があります。RSウイルス排泄期間は7~21日と長いこと、再感染が繰り返すこと、感染を繰り返すことでIgG抗体ができ、下気道感染は減り、感染を繰り返すことで症状が軽くなるものの、軽症だから感染拡大しないわけではありません。保育園に通園していない乳幼児への感染は兄弟姉妹や両親など同居家族からの感染が主になっております。さらに、RSウイルスに汚染されたカウンターでは6時間、手についたウイルスは約30分感染する力を持っているため、かなり**感染力が強いウイルス**と言えます。

マスクの着用 + 日常的に触れる箇所の消毒 + 手指衛生の徹底 で予防しましょう

RSウイルスにはサブタイプがあって、AとBで交互に流行することが知られています。RSウイルスは2020年まではインフルエンザの前に流行する感染症でした。図には過去6年の流行状を示しています。2020年にはRSウイルス感染症はほとんど見られませんでした。2021年に夏にピークとなる大流行が起こりました。2022年にも夏に流行しましたが、2023年では2021年の状況に似ていますので、**このまま夏にピークを迎え、発生数も同じような推移をたどる可能性があります**。ウイルス感染の流行には、「ウイルス干渉(あるウイルス流行しているときには他のウイルスの流行は少ない)」や抗体の持続期間などが影響していると考えられています。RSウイルス感染とCOVID-19では年齢層によって感染しやすさや症状の出方が異なるために、あまりウイルス干渉の影響を受けない可能性があるかもしれません。2020年の行動制限と徹底した感染症対策によってCOVID-19以外の感染症が減りましたが、行動制限なく、感染症対策も緩和されつつ社会では感染症が増えていますので、流行は人によって拡大していると言えるのかもしれませんが。

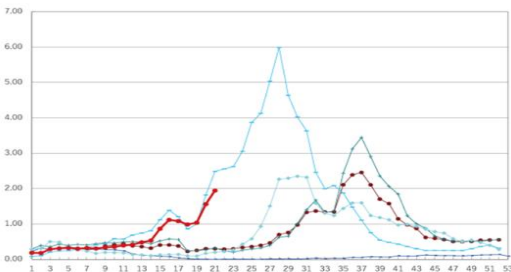


図.RSウイルス感染症(国立感染症研究所より)

(小児科 清益 功浩)

新 看護部感染対策委員 20名誕生！

6月1日に1日研修を終え、6月21日に認定証とバッジの授与式が行われました。今年度は施設も含めて新たに20名の感染対策委員が誕生しました。総勢35名のメンバーでいよいよ活動を開始します。

第5類となっても油断せずに、コロナ禍での感染対策を継続していく必要があります。研修や実習での学びを活かし、それぞれの部署の感染対策の要として力を発揮していただく存在としてメンバーの皆様活躍に期待しています。感染対策委員メンバーが中心となり、部署にとどまらない病院全体の感染対策を強化していけるよう皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

(看護部感染対策委員会 西紋悠子)



1日研修+実習(細菌検査室・サプライ部)+レポート提出

